

因果関係の 複雑さと うまく付き合う

林 侑輝 (はやし ゆうき)

経営現象の因果複雑性

今回は、私の専門分野である経営戦略に注目し、その成果を分析することが一筋縄ではいかないことについてお話ししました。今回は、原因と結果の関係性、すなわち因果関係の解明を難しくする要因について考えてみます。

私が最近取り組んでいるテーマの一つに、長寿企業（特に、家系・暖簾の継続性を強調して「老舗」と呼ばれることもあります）の研究があります。「長寿」の基準は最短でも100年とされることが多く、長生きの要因について仮説を考えてみるだけでも一苦労です。

多くの先行研究が採用していた手法は「現時点で長生きしている企業」に調査を行い、それらの共通点を分析する、というものでした。ここでは「長寿企業の共通点→長寿」という因果関係に注目している、とみなすことができます。

経営学は、社会科学の一種であり、現実世界で起こる社会現象の一種としての経営現象を研究します。社会現象は、人間同士のコミュニケーションを基本単位としていますが、ある行為が思いもよらない結果を引き起こすことが多々あります。社会学にはこれを表現するために潜在的機能という言葉がありますし、経営学では戦略的意思決定がもたらした「意図した結果」と「意図せざる結果」のズレに注目する、といった方法が珍しくありません。私たちは、それらの「知りえないこと」や「制御しえないこと」を「不確実性」と呼んだり、確率的に検討できる場合には「リスク」と呼んだりしています。とはいえ、コンピュータ上のシミュレーションや自然科学の実験室実験でもない限り、攪乱要因の全てを制御することは不可

能です。「経営には不確実性がつきものだ」という命題はある意味当たり前です。

「因果複雑性」というキーワードに注目し、経営現象の分析方法についても少し踏み込んで考えてみましょう。これは、以下の3つの性質を内包した概念です。通常、ある経営現象は複数の原因が絡み合うことで生じます（結合因果）。また、その現象を生じさせる組み合わせ条件も1通りではありません（等結果性）。しかも、その現象が「起こる原因」と「起こらない原因」は裏表の関係になっておらず、両者を切り離して考える必要があります（非対称性）。

ここで、因果複雑性の存在を意識しながら、上述した長寿企業研究のアプローチを穿って読んでみてください。半分正しく、半分間違っているような気がしてきませんか？ 次回は、このロジックの論理的な問題と、因果複雑性を考慮した再分析の結果から得られる教訓についてお話ししようと思います。

（和歌山大学経済学部 講師 博士（経営学））

社会人のためのキャンパス 和歌山大学岸和田サテライトのご紹介

4つの特徴

- ① 交通アクセスが良好
 - ② 働きながらスキルアップ
 - ③ 選べる学習制度
 - ④ 1科目でも学べる
- ▶▶▶ 南海岸和田駅から南海浪切ホールまで徒歩13分
 - ▶▶▶ 講義は原則夜間か土曜日に開講
 - ▶▶▶ 学部開放授業制度と大学院科目等履修制度
 - ▶▶▶ 学部開放授業の受講料は1科目10,000円
但し登録料7,000円（4年間有効）が必要です。

お問合せ先 ▶▶▶ 和歌山大学岸和田サテライト

〒596-0014 岸和田市港緑町1-1 岸和田市立浪切ホール2階
電話/FAX: 072-433-0875

岸和田サテライト

検索